

MGI030-09

会場:201A

時間:5月25日 10:45-11:00

## 多種多様多次元データとグローバルデータシステムの必要性 Global Data System for Multi-Dimensional Diverse Data

家森 俊彦<sup>1\*</sup>, 林 寛生<sup>3</sup>, 渡邊 堯<sup>2</sup>, 小山 幸伸<sup>1</sup>, 吉田 大紀<sup>1</sup>

Toshihiko Iyemori<sup>1\*</sup>, Hiroo Hayashi<sup>3</sup>, Takashi Watanabe<sup>2</sup>, Yukinobu Koyama<sup>1</sup>, Daiki Yoshida<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 京都大学大学院理学研究科, <sup>2</sup> 名古屋大学 STE 研究所, <sup>3</sup> 京都大学生存圏研究所

<sup>1</sup>Graduate School of Science, Kyoto Univ., <sup>2</sup>STE Laboratory, Nagoya Univ., <sup>3</sup>Research Institute for Sustainable Human

今や地球科学の多くの分野で、多種多様なデータを用いる分野横断的研究が盛んに

なっているが、そのような研究を始める際、必要なデータの所在がわからず、既にあるにもかかわらず、自分自身でデータの取得から始めたり、あるいはあきらめたりした研究者は数多いと思われる。すなわち、地球科学は、分野外の、あるいは、同一分野であっても、多様なデータの所在情報(メタデータ)が整備され、かつ、データが簡単に入手できるシステムがより強く必要とされる段階になっている。2008年秋のICSU(国際科学会議)総会で、1957年の国際地球年(IGY)以来活動を続けてきた世界資料センター(WDC: World Data Center)システムを改組・拡充するために、「世界データシステム(WDS: World Data System)」が発足したが、これは、地球科学にとどまらない広範な分野のデータを取り扱うことになっており、メタ情報とそれをういたデータの流通が、WDSが成功するための重要な鍵であると考えられる。また、超高層物理学分野では、平成21年度から6年計画で、5機関7組織が連携して、多種多様な観測データを利用して超高層大気の長期変動を研究するための計画が始まり、メタデータを核とするデータ交換・利用システム(IUGONET)の開発が進行している。講演では、超高層物理学分野を例として、WDSやIUGONETなどのグローバルデータシステムの必要性を示す。

キーワード: 世界資料システム, 大学間連携, 分野横断, 多種多様, 多次元, メタ情報

Keywords: World Data System, Inter-university program, interdisciplinary, diversity, multi-dimensional, metadata